

平成30年 5 月16日

平成30年度第2回教育委員会定例会会議録

鹿児島県教育委員会

平成30年度第2回教育委員会定例会会議録

日時 平成30年 5 月16日 (水)
1 4 時 0 0 分～1 5 時 0 5 分

場所 教育委員会室

出席者

東	條	教	育	長
島	津	委	員	
今	村	委	員	
原	之	園	委	員
石	丸	委	員	
堀	江	委	員	

[illegible]

議 決 事 項

件 名	提 案 理 由	審議の状況	採決の次第
議案第 1 号 教育に関する事務について定める議案についての知事への意見申出について	教育に関する事務について定める議案について、知事へ意見を申し出ようとするものである。	特 記 事 項 な し	決 定
議案第 2 号 鹿児島県産業教育審議会委員の任命について	鹿児島県産業教育審議会の委員の 3 人の辞任に伴い、その後任を任命しようとするものである。	特 記 事 項 な し	決 定
議案第 3 号 鹿児島県立図書館協議会委員の任命について	鹿児島県立図書館協議会の委員の 2 人の辞任に伴い、その後任を任命しようとするものである。	特 記 事 項 な し	決 定
議案第 4 号 鹿児島県文化財保護審議会委員の任命について	鹿児島県文化財保護審議会の委員の任期満了に伴い、その後任を任命しようとするものである。	特 記 事 項 な し	決 定

会 議 要 旨

1 開会

2 会議の公開等について

議案第1号から議案第4号については、非公開で審議する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 平成30年度第1回教育委員会定例会の会議録の承認

承 認

4 その他

(1) 平成31年度鹿児島県公立学校教員等採用選考試験の概要について

(教職員課長) 平成31年度鹿児島県公立学校教員等採用選考試験の概要と本年度の主な変更点及び選考試験の概要等について説明

(島津委員) 今年度から小学校において、合格者をⅠ区分とⅡ区分に分けることになったが、受験者にとっては良かったのではないかと思う。
ただ、全体で考えたとき、受験倍率はこれまで10倍程度だったが、内訳を見ると結構ばらつきが出てきており、低い倍率のものもある。その辺については、しっかりと質を確保できるよう考えなければならない。
それから、今年度は小学校で160人程度とあるが、増となった理由は何か。

(教職員課長) 鹿児島県では、一時的に大量に採用したり、全く採用しなかったりということがないように、毎年一定の数を確保できるよう平準化を図りながら採用してきた。近年、特別支援教育への理解が進んだこともあり、特別支援学級が急増してきている。このようなことを勘案し、今後も一定数の確保が必要ではないかと考え、今年度は増としたところである。

(原之園委員) 小学校で160人程度とあるが、これはⅠ区分の人数と考えてよいのか。
また、今年4月1日付けの採用では、何人辞退されたのか。Ⅱ区分に該当する方は何人か。

(教職員課長) 160人程度はⅠ区分の人数である。
Ⅱ区分は、Ⅰ区分の1割程度の人数を確保したいと考えている。今年度辞退された人は、小学校では1人だった。

(原之園委員) Ⅱ区分から採用されるのは、今年の場合で考えると1人ということになる。残りの方に関しては、次の年の試験では優遇措置を考えておられるのか。

(教職員課長) II区分で登録されている方で採用がなかった場合、次の年も小学校を受験する場合は1次試験が免除される。II区分の方は合格者と同程度の力を持っている方々であるので、例えば、学校で期限付き等を経験しながら次年度に備えることも可能になると考えている。

(2) 平成30年度全国学力・学習状況調査について

(義務教育課長) 平成30年度全国学力・学習状況調査の概要、結果の公表等について説明

(島津委員) 今年度実施の中学校の英語予備調査について、内容を詳しく教えていただきたい。また、これは今後どのように展開されていくのか。

(義務教育課長) 平成31年度から全国学力・学習状況調査において、中学校では英語調査を導入する予定となっている。その前に予備調査として、全国的に抽出して実施することになった。

内容は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」になる。

(島津委員) 「話すこと」もあるのか。

(義務教育課長) 「話すこと」もある。

(原之園委員) 試験と同時に、生活習慣と学習環境等に関する質問紙調査もある。例えば、具体的に携帯電話の使用状況なども考えられるが、主な内容を教えていただきたい。

(義務教育課長) 毎年、質問項目は変わっているが、大体は、家庭における学習時間や学習方法など、生活習慣と絡めた内容になっている。

(石丸委員) 特別支援学校の参加校数は記載されているが、参加人数は何人だったのか。また、増加傾向であるのかどうかも教えていただきたい。

(義務教育課長) 小学部で5人、中学部で7人であった。例年、この程度の人数だが、欠席があったり、その学年にいなかったりという場合もある。

(島津委員) 受験結果はどのようにフィードバックされるのか。

(義務教育課長) 結果は本人に返ってくる。また、県を通して学校等にも返ってくる。

(島津委員) その結果を全体に生かしていかなければならない。特別支援教育の中での傾向など分析したものも生かしていただきたい。

(義務教育課長) 問題分析したものをかごしま学力向上支援Webシステムに登録して活用していただくようにしている。

(島津委員) 一般の学校とは別の活用をする必要がある。

(3) 平成30年度公立高等学校入学者選抜について

(高校教育課指導監) 平成30年度鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要等について説明

(島津委員) 試験結果の概要が詳しく丁寧にまとめられている。
教育事務所経由で活用していただくとのことだったが、せっかく作られたので、是非しっかりと活用していただけるよう期待したい。
ただ、目安点未満の人数が増えていることが気になる。この辺は改善しなければならない。例えば、平成30年度の数学の問題で、「 $9/5 \div 0.9 - 1/2$ 」を間違えた人が17.9%であり、2割弱の人が解けなかった。小数点と分数が一緒になると解けなくなる傾向があると思うので、その辺をしっかりと教えていただく必要がある。
それから、国語の解説において、文章理解力が十分備わっていないのではないかとされている。国語での読解力の問題をきちんと解けるかどうかというのは、他の教科にも大きく影響すると思うので、その辺を充実させていく必要がある。義務教育課と高校教育課でしっかりと連携していただきたい。

(高校教育課指導監) 理科においては、目安点未満の人数が減っている。今年は基本的な問題が増え、その問題を解くことができた人が多かった。英語では、レベルが難しくなり、目安点未満の人数が増えている。
このデータは、学力を見るのに非常に分かりやすい。80点など上位成績者の動きはあまりないが、この辺りについては、問題の状況に応じて変動している。何年か続けていくうちに、その対策がなされて、学習指導がそれに慣れていけば、目安点未満の人数は減っていくのではないかと考えている。
読解力については、以前、社会の問題の文章が長く、国語の問題ではないかという意見があった。今はしっかりと読んだ上で問題を解いてもらうため、読む量がかなり増えている。数学においても、計算を解く以前に文章をしっかりと読んだ上で計算することになっている。いろいろな教科において、しっかりと問題を読んだ上で、それぞれの問題に回答していただくなど、読解力にも対応しているところである。

(原之園委員) 資料には中学校と高等学校における取組が書かれている。目安点で小学校段階でしっかりと学ぶべきであったところできていない。小学校についても、卒業するときまでには過去の問題もできるようにしていただきたい。
また、勉強ができるようになると、学校が楽しくなり、学校が

楽しくなると、今課題になっているような問題も克服できるのではないかと強く思う。是非、目安点についての小学校での取組についてもお願いしたい。

それから、目安点未満の地区別状況に差が見られる。その辺りについては、どのように考えられているのか。

(高校教育課指導監) 目安点未満の地区別状況について、目安点未満の受検生の割合が高いところは平均点が低く、割合が低いところは平均点が高い傾向がある。

小中学校で行っている調査と大体対応していると思う。本来はモチベーションに違いはないはずだが、高校入試は選抜試験ということもあり、倍率も出るので影響がないとは言えない。実際、中学校においては、3種類の方法で受検点数の提供を行っているので、各中学校で点数や解けなかった理由などをしっかりと把握していただいて、目標を掲げて対策していただきたいと考えている。

(原之園委員) かつて高等学校に勤務していたとき、高校1年生の最初の時間に高校入試の問題を30分程度で解かせてから、高校の授業に入るようにすることもあった。高校入試の問題は、大変練られて素晴らしい問題を作られているので、学習内容を振り返る一つの機会になると思う。

(石丸委員) 100点未満であった450人の子供たちがそのまま合格している。この子供たちの場合は、学校やクラスで他の子供たちと同程度の授業を行うのか、それとも何か工夫をしているのか。

(高校教育課指導監) まず、採点の段階で、どのようなことが問われているのか把握するよう学校を指導している。来年度から、高校生のための学びの基礎診断が本格的に始まるので、それに向けてPDCAサイクルを具体化していく作業が進んでいる。その最初の段階として、今回の高校入試において、どのような学力の生徒が入ってくるのか把握し、4月当初に学習オリエンテーションなどを行う。しかしながら、生徒間に差があるので、可能な範囲で対応していくことになる。全体的に学力が低いと判断される場合は、基礎段階から学ぶ科目を1年の段階で実施し、だんだんと違う科目に移っていくなど、状況に応じて対応していくことになる。入った段階でどのように把握するのが大事になるかと思う。

(4) 鹿児島県社会教育委員の公募・審議テーマについて

(社会教育課長) 鹿児島県社会教育委員の審議のテーマ及び委員の公募について説明

(島津委員) テーマの中にある社会教育の学びについて、どのように考えられているのか。

(社会教育課長) まず、地域コミュニティを理解していただく機会を捉えようと考えている。地域住民が生活している場所において、住民相互の交流が行われる地域社会の在り様や住民の集団をより活性化させるために、まずは地域住民の方々が生き生きと生活し、わが故郷を愛する気持ちを持っていただくために、地域を知ることから進めていきたい。そのためには、各市町村で行われている研修会などの機会に学びを提供していただいて、学んだことを生かす場を提供できるよう、活性化につなげていきたいと考えている。

5 議案

議案第 1 号 教育に関する事務について定める議案についての知事への意見
申出について

(非公開)

議案第 2 号 鹿児島県産業教育審議会委員の任命について

(非公開)

議案第 3 号 鹿児島県立図書館協議会委員の任命について

(非公開)

議案第 4 号 鹿児島県文化財保護審議会委員の任命について

(非公開)

6 閉会